

報告者：井上（支援センターあさがお）

令和5年度 第1回 台東区障害者地域自立支援協議会(相談支援部会)報告

1 開催日

【定例会】：毎月第2水曜日 13：30～15：00

リモート開催 1/11、3/8、4/12 （3回）

【連絡会】：3ヵ月に1回 定例会の前に実施 3/8 13：30～14：30（1回）

2 検討した内容

<相談支援部会 定例会>

（1）地域生活支援拠点等の検証

- ・相談実績が令和4年11月現在で17件。相談事例を通じ、緊急時のヘルパー確保が難しく、結果、相談支援専門員の対応となり、相談支援専門員の負担の大きさを確認。今後、障害者対応のヘルパー養成と各事業所の連携をより密にした協力体制の構築が必要と考察した。
- ・緊急時の受入対応実績は4件。受入施設の空きがなく、断ったケースが多い。今後、区有施設の活用等を含め、短期入所施設の充実方法を検討。
- ・体験機会の確保は、地域移行に向けたグループホームの体験を目的に2施設で実施。延べ38件実施。複数年体験事業を利用しても地域移行に至らないケースもある。少しでも住み慣れたところで地域移行ができるための環境整備を検討。

（2）地域包括支援センターとの交流会の実施

2月15日実施。34名参加(うち部会関係14名)。「障→介シート」を活用した介護保険制度への移行をテーマに、グループワークを通じての意見交換を実施。

（3）虐待防止啓発カード作成・配布について

3障害すべての当事者の意見を確認。わかりやすくシンプルな内容のものとし、まずは連絡を入れることを促すものとなる。3月末に完成し、各相談事業所等に配布を開始。

（4）計画策定に向けての地域課題の整理（詳細別紙参照）

事前に募集し、寄せられた次期障害福祉計画に向けられた意見を確認、整理。内容に応じての修正を実施。主なものは以下のとおり。

「障害への理解促進、意識啓発」「権利擁護の取り組み（法人後見の実施、バックアップ）」「地域活動に参加しやすい環境整備」「計画相談支援事業所への支援（対応の範囲、報酬算定外の支援、セルフプラン率低減のための取り組み）」「地域生活支援拠点の機能充実」「住宅相談・情報提供」「在宅生活支援物品の給付」「在宅生活レスパイト事業の拡充」「ヘルパー等人材育成・確保への取り組み」等

4月定例会にて意見の内容の整理、修正された意見の再確認を実施する。

(5) 令和5年度検討テーマについて

障害を持つ方の移動について 通学支援、移動支援
事例検討（個別の課題から地域の課題を考える）

(6) 講演会・勉強会について

テーマについて意見交換している。8050問題、成年後見制度、補装具給付等
が候補に挙がっている。テーマ決定後、秋以降に実施予定。

<相談支援部会 連絡会>

各相談支援事業所の実績報告 令和4年11月～令和5年2月

(1) 児童対象の事業所不足

- ・区内の放課後等デイサービスの事業所が少なく、送迎対象者を特別支援学級の児童と限定。また、区外の事業所は台東区が送迎範囲外になっていることが多い。特別支援学校に通う児童で、送迎希望の児童が利用できる事業所が見つからない。
- ・医ケア児や重心児が通える放課後等デイサービスが区内にはなく、利用できる事業所が見つからない。

(2) 介護保険サービス従事者と障害福祉サービス従事者における感染症対応に関する認識の差

- ・精神障害のケースの場合、ある程度の基礎体力の保持や、身体面の持病がない場合も多く、小さな体調不良の際にいったん様子を見るという選択肢をとることが多い。しかし、介護保険ではケースの年齢や身体面の持病保有率の高さから、体調変動時、特に重篤な感染症の蔓延期には、リスクを大きく捉え、早めの医療的介入を行なうことが前提とされている。認識に大きな差があることを支援事例を通して確認した。

(3) 8050問題

- ・認知症の高齢の親と子の2人暮らし。親の認知症の生活への影響が大きくなっている。しかし、子は、電話は可能だが突発的な場面での対応が難しい。母親の介護保険と障害サービスで見守る体制をとっているが、緊急時対応に不安がある。
- ・高齢の親は独居。本人はグループホーム入居中。金銭管理を親が担うも骨折で入院。認知機能の低下がみられ、支払い等金銭管理の面で不安が生じ始める。親は退院後、介護保険を利用しての生活になるが、本人、親、共に定期的な実家への帰宅を希望。介護力が不安な状態の実家への帰宅の可否を、グループホームでは判断ができない。今後の金銭管理に関しても課題があるが、親は自分ができることと認識し、支援者との認識の差がみられる。
- ・本人独居。高齢の親は認知症もあり施設入所。本人名義のマンションに居住だが、配管の老朽化でたびたび水漏れがある。所有物件のため、配管工事をする場合、高額な費用負担があるが、本人によるすべての理解、判断が難しい。

(4) 金銭管理に関する問題

- ・本人自身では金銭管理が難しく、親が金銭管理を行っているが、スマホコンテンツへの課金から、家族での対応ができなくなり、支援者による定期的な金銭使用

に関する支援が生じている

- ・親に精神疾患あり。親と親族より虐待を受け、耐えられず家を飛び出した。保護された後、グループホームを経て通勤寮を利用中。この間に本人の金銭問題が発覚。親起因の家賃や携帯電話料金などの滞納など合わせて約100万円の本人名義の債務を確認。弁護士が介入するが、支払いは本人が行うことになる。支援者と本人で返済方法を調整。経過を観察し、その都度相談を受けての対応。

(5) 困難ケース

○利用者から同行援護従業者等へのハラスメントがあるケース

- ・全盲ろうの70代男性。同行援護従業者や盲ろう者向け通訳・介助者から、「強い口調で怒られる」、「モラハラやパワハラに感じる」といった相談の頻度が増加。そのため、相談支援専門員とサービス提供責任者とで本人と面談を実施。本人としては、「自分の言いたいことが伝わらない」、「聞いていることと返答が違う」などの場面で感情が抑えられなくなるとのこと。本人の気持ちを受け止めつつ、怒りすぎないように、また、その際に通訳・介助者や同行援護従業者がどのように感じているか話をした。通訳・介助者や同行援護従業者には、面談したことと今後の対応、また本人が望むことを周知。本人のハラスメントの要素を含んだ言動はこれまでもあり、その都度、本人と話をしてきたが、中には本人の支援から離れる選択肢をとる者も出てきている。本ケースの背景には、盲ろうという障害だけではなく、認知機能の低下も重なっていることが疑われる。医療につなぐことも検討する必要があるが、本人が他責的に物事を捉えているなかで、どのように対応すればよいか、苦慮している。

○「境界性パーソナリティ障害」のケースへの支援

- ・20代女性。居室が書類・私物の山になっており、ベッドの上以外、人が座れる場所が無く、面談時は玄関にて実施。現在裁判で係争中で、関係者や警察が家に来た際に居留守を使うため、本人と連絡を取ることが非常に難しい。他人に依存する傾向があり、現在週1回の訪問看護を利用しているが、既に依存気味（依存度を高めないように、訪問回数は増やしていない）。居宅介護の導入をするが、連絡が取り合えないため、調整に苦慮している。

○医療的な支援が必要な知的障害の方の支援

- ・知的障害（40代・男性）。母親（80代、要支援2、認知機能低下みられる）と二人暮らし。膀胱瘻を造設し透析、栄養指導のため通院同行。主治医及び訪問看護と連携して継続支援を実施。自立支援医療（更生医療）の更新手続き等の支援も行なう。本人の病識理解が難しく、食事・水分管理ができていない状態。また、日中の通所事業所を異動する予定。支援体制の整備や生活の再組立てについて関係機関と連携が必要。

○保護者の過干渉気味の関わり方がご本人へ影響を与えているケース

- ・知的障害（40代・女性）。グループホーム生活。グループホーム入寮から半年が経過し、自立したい気持ち・自分ができることが増えてきている中、母の思い・心配している気持ちが過干渉、管理、支配という形となり、本人が嫌悪を表出。各関係機関と情報共有し、一つ一つ問題を整理。相談の場を定期的に設けている。

○通所ができなくなってしまったケースの支援

- ・知的障害・ダウン症（50代・男性）。家族と同居。生活介護の通所利用をしているが、通所ができなくなり、在宅が続いている。家族支援が難しく、相談支援事業所・通所先が定期的に家庭訪問し、見守り支援を実施。ADL・QOLの低下が著しいが、その中でも本人が出来ることはあり、今ある力を低下しないよう過ごしている。入所施設の申し込みを行ったが、入所に至らず。そのため、本人・家族含め関係機関と今後の支援方針を確認。

○キーパーソンの母の入院に伴う支援

- ・知的障害・一般就労（50代・女性）。家族と同居。母は身体に障害があり、大腿骨付近に壊疽部あり、患部治療のため入院加療中、父は他界。叔母・従弟がいるものの1人で暮らすことは困難との相談内容であった。障害福祉サービス未利用だったため、急遽来所し、インテークとともに認定調査。緊急にて短期利用開始。母の入院期間中は仕事を休ませるとの意向が強く、会社はお休みをして短期入所を利用。母の介護支援専門員と情報を共有。母の退院後は、母への訪看導入を決める。また今後、計画に直結しない場合の一般相談や基幹相談への協働も所内で検討中。

○居住場所であるグループホームでの安全確保が難しくなったケース

- ・50代（知的）。以前、警察が関わる事案を起こし、単独での外出が制限されている。（コロナ関連の理由で）外出の予定変更の依頼をきっかけとして不穏になり、グループホームの塀を乗り越え、飛び降りようとする行為が見られた。職員が制止し、一命をとりとめたが、その際止めた職員への他害も見られた。その後も何度も飛び降りしようとした。グループホームとして、安全に支援することの限界を感じており、複数の支援者が夜間も常駐する事業所への移行を検討。1月末、都外の短期入所事業所へ移行。ご本人が混乱する原因になる刺激を一定程度コントロールしながら、穏やかに過ごせる環境調整を考えている。

○衛生的な環境の確保や医療機関との連携の難しいケース

- ・てんかん（50代・男性）のある方。現在一人暮らし。就労継続支援B型（週5日）、訪問看護（2週間に1回）を利用。訪問看護によって自宅でトコジラミ発生の可能性があるかと判明した。昨年夏頃からB型事業所への通所が不安定になり、通所できない日が増加。皮膚の状態も悪く、支援者が皮膚科への受診を促し、受診するが、薬の服用や塗布をせず、状況は悪化。大きい病院に行けば変わるとの希望を本人が持ち、通院先に相談したが紹介状を書いてもらえず、状況改善とはならなかった。訪問看護も訪問時に薬のサポートをしようと提案するも、本人が拒否し、訪問はできても介入できなかった。トコジラミの件も含め、保護課への相談を促すも、本人はなかなか役所へ行けず、しばらくして保護課に行き、入院の相談を実施。今後は入院先を探し、現アパートを退去、退院後はグループホームへの入所を検討していく。

○身元不明者（40～50代女性/精神疾患※事後判明）の緊急保護

- ・年始に区内の短期入所事業所へ「身元不明者を受け入れてほしい。」との依頼が警察・区からあった。施設側より条件を伝えたくて、今回は受け入れを実施。結果、事故等に至らぬまま最終的に家族に繋がったが、現場職員の不安等は大きかった。年末年始であり通常対応が難しい状況下で身元不明者の保護があった場合、どのような流

れでどのように保護したらよいか、事前に決めておく必要性を痛感。

各事業所 相談支援実績報告

令和4年11月～令和5年2月

1	福祉サービス利用等に関する支援	<ul style="list-style-type: none"> ・計画相談支援（計画案作成、モニタリング、支援者会議） ・手続き・制度、社会資源の案内・申請手続き支援 ・事業所（居宅介護・通学支援・移動支援・短期入所等）探し ・事業所との調整 トラブル対応 ・在宅支援に関する事業所間連携 ・事業所への見学同行 ・体験利用振り返り同席 ・短期入所の利用案内 ・生活拠点ケース会議参加 ・福祉用具購入、給付の支援 ・サービスの調整 ・介護保険および65歳以降の障害福祉サービス利用に関する相談・支援 ・GH、通勤寮利用に関する支援 ・児童の施設入所に関する支援 ・支援区分調査への同席 ・緊急的な短期入所に関する支援
2	障害や症状の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・本人、保護者の障害受容に対しての傾聴及び情報提供 ・希死念慮・妄想等について ・自殺企図のある方への支援 ・突然の不穏行動への対応 ・機能低下について ・認定調査立ち合い
3	健康・医療	<ul style="list-style-type: none"> ・入退院、通院、検診等 経過把握、通院同行支援など ・薬の服用方法 ・訪問看護、訪問診療、訪問歯科、訪問マッサージ等との連携・救急搬送 ・リハビリに関する相談・発熱時等の相談・ストマの管理・食事の管理 ・コロナ関連（コロナ感染、後遺症、ワクチン接種、検査、緊急訪問要請等） ・健康診断、歯科検診手続き・ホスピスの利用・医ケア児のサービス調整 ・自立支援医療手続き ・不眠の相談 ・アルコールの過剰摂取
4	不安の解消・情緒安定	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの不安 ・病気への不安 ・ペットロス ・承認欲求 ・日常生活の不安や不満に対する相談・経済的な不安・就労に対する不安 ・就労先、通所先、グループホーム、ヘルパー事業所等への不満 ・支援者への不満 ・支援者変更に伴う不安 ・主治医への不満 ・育児への不安 ・将来への不安 ・一人暮らしの不安
5	保育・教育	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の進学先についての相談 ・特別支援学校との連携 ・教育支援館との連携（福祉サービスの申請方法・外国人の言葉の相談先等） ・思春期の子どもとの関わりについての相談
6	家族関係・人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・家族関係、夫婦関係の相談 ・訪問の看護師との関係悪化 ・利用者間、友人間のトラブル ・介護に関する負担感 ・家族の入退院に伴う相談 ・家族が難病 ・親戚との関係性 ・コミュニケーションスキル
7	家計・経済	<ul style="list-style-type: none"> ・障害年金申請・更新・変更等についての対応 ・給付金の手続き ・生活保護についての相談・保険の解約・携帯解約・通帳管理の支援 ・家計についての相談 ・医療費助成に関する相談・年末調整の相談 ・毎月の積立金、貯金についてのサポート ・ヘルパー利用の自己負担金 ・確定申告について ・老齢年金の請求 ・利用料の引き落とし

8	生活技術	<ul style="list-style-type: none"> ・金銭管理についての相談 ・近隣住民とのトラブルについて ・生活全般についての相談（書類管理、携帯利用、生活必需品購入、配食サービス、修理依頼、郵便物の管理、片づけ等） ・衛生に関する支援 ・引越に関する支援 ・マイナンバーカード ・民間保険加入手続き ・キャッシュレス化に伴う支援 ・ヘルプマーク利用についての説明
9	就労	<ul style="list-style-type: none"> ・就労支援関係機関との連携 ・仕事についての相談 ・雇用形態について ・職場訪問 ・仕事に集中できない ・失業保険の手続き ・医師との連携 ・勤務先の間人間関係や勤務内容の不満等の相談 ・移行支援の継続について ・B型事業所閉鎖に伴う支援 ・クローズドの状態です就労するかどうか
10	社会参加・余暇活動	<ul style="list-style-type: none"> ・休日の時間の使い方の助言 ・ヘルパー事業所の紹介 ・イベント情報提供 ・福祉機器展同行 ・代読ボランティアの紹介 ・余暇活動の内容について ・ピアサポート活動について
11	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・成年後見制度に関する相談等 ・保佐人との連携 ・地域福祉権利擁護事業に関する相談 ・触法行為（裁判関係の支援） ・要保護児に対する支援等について関係機関との情報共有 ・遺産の相続について ・虐待通報 ・虐待が疑われるケースの面談 ・保佐人の管理への不満
12	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・避難支援計画の作成 ・医療観察法対象者の支援 ・自転車保険の返還金 ・交通事故後の賠償について ・無料定額宿泊所の利用について ・分離措置となった親との面会について ・リモート面会の調整 ・将来の生活について（知人と暮らしたい。） ・身元不明者の確認

3 今後のスケジュール

- ・今年度のテーマに基づき検討を行なっていく。
- ・講演会または勉強会の実施に向け検討していく。
- ・地域包括支援センターとの交流会の実施に向け準備をしていく。